

令和2年度 第2回
八千代市総合計画審議会
会議録

八千代市総合計画審議会

令和2年度 第2回 八千代市総合計画審議会

1 開催日時 令和2年9月16日(水) 午後2時00分から午後3時15分まで

2 開催会場 八千代市役所 新館6階 第4会議室

3 出席者 ◇ 八千代市総合計画審議会委員

会 長 日本大学名誉教授 伊 澤 岬

副会長 八千代商工会議所会頭 上 代 修 二

委 員 公募委員 高 橋 敏 行

日本大学工学部教授 藤 井 敬 宏

東京成徳大学応用心理学部教授 出 雲 輝 彦

秀明大学総合経営学部准教授 山 口 桂 子

八千代市自治会連合会副会長 伊 藤 禎 造

八千代市体育協会会長 飯 島 好 美

八千代市農業協同組合理事 中 嶋 功

八千代市子ども会育成連絡協議会 荒 川 香 南 子

八千代市社会福祉協議会会長 綱 島 照 雄

八千代市長寿会連合会副会長 渡 部 正 敏

八千代市芸術文化協会理事 鳥 羽 佐 知 子

欠席委員 公募委員 長 谷 川 智 亮

公募委員 服 部 雅 充

八千代市医師会会長 加 瀬 卓

(敬称略)

◇ 事務局

企 画 部 長 小 川 勝

同 部 次 長 加 藤 博 士

企画経営課主幹 原 田 泰 雄

同 課 副 主 幹 井 澤 延 浩

同 課 主 査 補 櫻 井 徹

同 課 主 任 主 事 赤 川 健

同 課 主 事 菅 原 良 太

4 公開・非公開

公開

5 傍聴者(定員5名)

0名

6 議題

- (1) 第5次基本構想(素案)について
- (2) その他

7 会議資料

- (1) 資料 1 八千代市第5次基本構想(素案)に関する意見・質問票に対する回答
- (2) 参考資料 1 SDGsとは
- (3) 参考資料 1-2 八千代市まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和2年改訂)【概要版】
- (4) 参考資料 1-3 第4次総合計画後期基本計画 指標一覧
- (5) 参考資料 1-4 市長と秀明大学学生との意見交換会 概要
- (6) 参考資料 1-5 パブリックコメントの意見概要(未定稿)

I 事務局より

○事務局（加藤次長）

本日はお忙しい中御出席いただき、誠にありがとうございます。

それでは、定刻になりましたので、ただいまから令和2年度第2回八千代市総合計画審議会を開催させていただきます。本審議会は「八千代市審議会等の会議の公開に関する要領」の規定により、公開の会議となっております。

また、会議録作成のため、会議の状況を録音させていただきますので、予め御了承ください。

それでは、会議に先立ち、資料について確認をさせていただきます。本日配付いたしました資料でございますが、「次第」、「委員名簿」、「席次表」、先日、お送りした資料に追加資料として「参考資料1-5パブリックコメントの意見概要 未定稿」でございます。配付漏れ等ございましたら事務局までお声をおかけください。

また、本日は長谷川委員、服部委員、加瀬委員におかれましては、所用のため欠席との連絡をいただいております。

早速でございますが、今年度会議に初めて出席される、出雲委員、山口委員、中嶋委員より一言いただいてもよろしいでしょうか。それでは、出雲委員から、よろしく願いいたします。

II 委員自己紹介

○出雲委員

東京成徳大学の健康スポーツ心理学科の教授をしております、出雲です。よろしくお願いいたします。健康スポーツ心理学科は八千代市のキャンパスに2009年に開設しまして、その時にスポーツボランティアという授業を開講して、新川プレーパークのオープンに学生を参加させて頂き、2019年度からは放課後子ども教室にも活動を拡げております。

後期の授業では、八千代市内の何らかの問題を、学生たちが地域の方との問題解決を予定しておりますので、関係者の皆様にも御協力いただければと思います。よろしくお願いいたします。

○山口委員

はじめまして、山口です。よろしくお願いいたします。秀明大学、昭和63年、1988年に16号線の北側に出来た大学に勤めております。1988年より前の地鎮祭の時に初めて八千代市にまいりました。それから30年以上、八千代市に通っております。

最初の頃は、津田沼からバスで来ていたんですけれども、かなり長い距離をバスで来て、南の方と北の方では八千代市は随分違うんだなという印象を受けております。

また、道路事情も片道1車線であったり、T字路があったりと、なかなか今もまだ解決されていない道路事情を感じておりますし、また北の方と南の方とでは、多分市民の方の意識も違うのかなという気もいたしますので、その辺りのこと、ちょっと気が付いたことを言わせて頂ければと思います。

大学が出来た時には、八千代市の市長さんが熱心に誘致してくださったおかげで、八千代国際大学という、まさに市の名前を背負った大学で、市と一緒に公開講座もやっていたけれども、設立の母体が桑橋にあります秀明学園で、学園の一体化ということで、大学名を秀明大学と変えましたけれども、やはり設立時からの教員は八千代市に大変思い入れもあります。

1回目の入学式は八千代市の会館でやらせて頂いたりしておりますが、30年以上通っております割には知らないことも多いので、勉強させていただきながら何かお役に立てればと考えております。よろしくお願いいたします。

○中嶋委員

J Aの中嶋です。ただいま水田では、稲刈りを行っておりますが、約60%は終了しております。当農協で集めたお米は、学校給食米に使われております。かなり前から、市長の意向により学校給食米として、八千代で取れたお米を生徒の皆さんに食べていただくということで、拠出しております。この会議は今回出席が初めてでございますので、どうぞ一つよろしくお願いいたします。

○事務局（加藤次長）

なお、伊藤委員より、多少遅れるというような御連絡が入っておりますので御了承いただければと思います。

それでは、八千代市総合計画審議会条例第6条第1項の規定により、会議の進行について、伊澤会長にお願いしたいと存じます。会長よろしくお願いいたします。

Ⅲ 議事

【議題】

- (1) 第5次基本構想（素案）について
- (2) その他

(1) 第5次基本構想（素案）について

○伊澤会長

それでは、規定によりまして本日の会議の議長を務めさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

前回のこの会議におきましては、八千代市のコロナ感染者が40人に満たなかったのですが、1か月ちょっと経って一気に140人を超えるような勢いということで、最初の時には、安心してはいたんですが、ここ1か月の感染拡大にはちょっと驚きましたので、皆さんもぜひ御自愛いただいて、予防処置、対応よろしく願いしたいと思います。

それでは、委員の皆様におかれましては、御多忙のところ御参集いただきまして、大変ありがとうございます。ただいまの出席委員は12名でございます。八千代市総合計画審議会条例第6条第2項の規定による定足数に達しております。

審議に先立ちまして私の方から、総合計画審議会の持つ役割をここで改めて整理しておきたいと思います。委員の皆さんはもう御承知の通り、本審議会は市長から諮問を受けた計画案に対しまして、会として内容を審議するものでございます。

審議を行う途中で不明な点、疑問に思う点などがあれば、事務局に対して質問し、その回答をもとに、議論を行っていきたいと思っております。

また、内容に対する意見がある場合、この計画についてこの項の部分について、こうした方がいいとか、あるいはこうあるべきであるなどとの意見を申し述べることを目的としております。

最終的には審議会全体の総意といたしまして、市長に対して答申を行って参りたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

なお、この計画案に対しての意見を付議する必要があると、この審議会の総意として決定した場合には、意見を付議した答申となるということでございます。

それでは、この点を踏まえまして、審議の方に移らせていただきたいと思います。

まず、委員の皆様からいただきました意見等につきまして、執行部から説明をお願いしたいと思っております。

○事務局（原田主幹）

それでは私の方から説明をさせていただきます。失礼いたしますが着座にて説明させていただきます。それでは、配付資料に基づき、御説明をさせていただきます。

前回の審議会においてお配りしました意見・質問票でいただきました御意見・御質問でございますが、資料1「八千代市第5次基本構想（素案）に関する意見・質問票に対する回答」にまとめておりますので、御覧ください。

まず、初めに伊澤委員から、八千代市の人口減少元年にポストコロナ元年を加え、SDGsについては、八千代に求められる項目と八千代が対応できそうな項目の具体的なイメージとの御意見につきまして、前回会議においても、SDGsについての資料が求められておりましたので、併せて御説明させていただきます。

SDGsの内容につきましては、参考資料1「SDGsについて」を御覧ください。SDGsは、2015年9月の国連サミットにおいて全会一致で採択された、2030年を期限とする世界共通の17の目標で、誰一人取り残さない社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に総合的に取り組むものです。17の各目標の詳細につきましては、資料の裏面のとおりです。SDGsの達成に向けては、市民や企業、団体の理解、積極的な連携、協力が必要不可欠であり、第5次総合計画に位置付けて推進してまいりたいと考えております。

なお、総合計画の3層のうち、基本計画においてSDGsに関する位置付けを行い、各施策に対して、どのSDGsの目標が関連しているかを示すことで、SDGsを意識したまちづくりを推進してまいります。

続きまして、新庁舎の設計で現在掲げている設計コンセプトと八千代SDGs対応との比較分析、工事延期に伴う設計変更のコロナ対応との御意見につきましては、現在、災害時に避難所となる体育館の改修を優先的に実施している中で、新たに新型コロナウイルス感染症への対応・対策を最優先に進める必要が生じたことから、同感染症の収束が見えてくるまでの間、新庁舎の建設計画を延期することとしております。

なお、同感染症の対策につきましては、今後、大きく変化することが想定されるため、今後8年間の基本的な理念を示す基本構想には、具体的な内容については記載いたしません、「第5章 構想の推進のために 第4節 持続可能な行政経営の確立」において、「時代の変化に対応した」という記載内容の追加を検討してまいります。

続きまして、綱島委員より御意見頂きました、第4次総合計画と第5次総合計画のまとめ方につきまして、第5次基本構想では、将来都市像と基本理念との関係性を整理するとともに、施策の大綱において、基本計画と内容が重なる部分を削除するなど、総合計画全体としての明瞭性を向上させるため、まとめ方を変更しています。その為、章立ての番号にも変更が生じているものでございます。

続きまして、まち・ひと・しごと創生総合戦略について御説明いたします。

参考資料1-2を御覧ください。まち・ひと・しごと創生総合戦略は、まち・ひと・しごと創生法に基づき、少子高齢化や人口減少の克服、地域経済の発展や活力ある地域社会の形成などの課題解決に向け、本市の実情を踏まえ、人口、経済、地域、社会の課題に一体的に取り組むために策定した計画です。

本市の人口は、令和7年にピークを迎え、その後、減少に転じ、令和42年には約17万3,000人となる見込みです。総合戦略により、「まちの創生」「ひとの創生」「しごとの創生」の好循環を確立し、それがしっかりと根づくよう施策を展開することで、人口減少の抑制を図ることを目指しております。なお、計画期間は平成27年度から令和2年度までとなっており、今年度で期間の満了を迎えるものです。また、総合戦略の趣旨は、市の課題として総合計画でも取り組むものであり、一体的に策定することにより市民へのわかりやすい説明に繋がると考えられることや現総合戦略の取組を確認したところ、約9割は、第4次総合計画後期基本計画に掲載されている施策と重なっていること、進行管理の一本化など効率化が図れることなどから、第5次総合計画と総合戦略を一体的な計画として策定することとしております。

続きまして、総合計画と各計画との関係性についての御意見につきましては、庁内で組織する総合計画等策定会議において、各計画を所管している各部の部長級で構成される本部会や次長級で構成される幹事会を適宜開催し、総合計画の策定作業を進めてまいります。

続きまして、圏域に関する御意見につきましては、地域の個性や魅力を活かした地域づくりを推進するため、基本計画において地域別計画を位置付けております。同計画では、地域を「阿蘇」、「村上」、「睦」、「大和田」、「高津・緑が丘」、「八千代台」、「勝田台」の7地域に区分しております。現在、第5次総合計画前期基本計画の策定作業を並行して進めている中で、庁内関係部署で組織する「地域別・ゾーニング計画ワーキンググループ」を設置し、コミュニティや福祉等の様々な観点から、地域別計画の検討を行っているところでございます。

続きまして、コロナ後の新しい社会への対応につきましては、今後のワクチンや治療薬の開発、感染の拡大状況など、取組が大きく変わってしまう可能性があることから、基本構想では具体的な内容を記載しておりませんが、基本計画では新型コロナウイルスへの対応のほか、新たな感染症対策などへの対応についても位置付けを検討させていただきます。

続きまして、高橋委員から、市民意識調査において、交通弱者にやさしい交通環境に対するネガティブな回答が6割を超えており、利便性の高いと言った表現を加えること、交通弱者対策といった表現を加えることについての御提案につきましては、「快適で環境にやさしいまちづくり」の“快適”に内包していると解釈し、説明文において「利便性の向上」と記載させていただきます。

なお、道路施設等のバリアフリー化を推進し、高齢者や障害者等が安全に移動できる環境を

整備することも重要な視点であるため、記載内容として「誰もが快適に移動できる」という表現の追記を検討いたします。

続きまして、言葉遊びに流されず、根のある計画を作成すべきとの御意見につきましては、総合計画は、8年間の基本構想、4年間の基本計画、3年間の実施計画の3階層で構成し、時代の変化に対応しながら将来都市像の実現に向けた取組みを進めることとしております。

なお、策定に当たっては、市民・団体・市議会議員等からの意見や各種統計等の実績を踏まえ、作業を進めているところでございます。貴重な御意見として承らせて頂きます。

続きまして、上代委員より、都市間競争が激化する中、災害に強いということなどを周知していくことで、人口減少を食い止めていくための内容を記載してはとの意見につきましては、先ほど御説明いたしました、総合戦略、地方創生を打ち出している中、移住・定住施策を推進するため、「第5章 構想の推進のために 第3節 多様性のあるまちづくりの推進と魅力発信」において、“人口減少の抑制に向けた施策を推進し、魅力あるまちづくりを進めていく。”といった記載内容の追記を検討いたします。

続きまして、鳥羽委員より御意見頂きました、市民ギャラリーへのアクセスにつきましては、施策の中に「総合交通・道路環境の整備」を位置付けており、市内の公共施設への移動手段の確保を含め、総合的な交通機能の充実について検討してまいります。

続きまして、市民のレベルアップなどを目的とした市の名を冠した市展につきましては、担当部局に対し、情報提供を行い、意見を伝えさせていただきました。

続きまして、荒川委員より、PDCAの内容ということでございますが、総合計画の施策の推進状況を測る為、指標を設定しております。

指標の一覧については、参考資料1-3を御覧ください。前回会議において、指標の達成状況をお答えさせて頂きましたが、結果が前年度に調査した結果となっております。基本計画をお示しする際には、最新の進捗状況と併せて、取組状況の内容などを表した資料を改めて、お示しさせていただきたいと考えております。

続きまして、市民アンケート等で、年齢や性別による偏りが大きいとの意見でございますが、御指摘のとおり、偏りが生じていることから、多様な層からの意見を頂く為、若者や子育てを行っている世代の市民参画の手法などについて、引き続き検討してまいります。

また、庁内において、市民意識調査の結果を共有するとともに、年代別や性別の分析結果を踏まえ、寄せられた市民意見等を参考として、施策の検討を行っていきます。

なお、若者との意見交換の場として、今年1月に大学生との意見交換会を開催しておりますので、その概要を参考資料1-4に添付しております。学生との意見交換会では、「InstagramやTwitterなどのSNSを通じたPR」、「写真を活用したイメージしやすい情報発信」といった様々な意見が挙げられたところでございます。

続きまして、SDGsにつきましては、基本計画において、施策とSDGsの目標との関連性を示させていただきます。

続きまして、八千代市が施策・特徴として重点化していこうと考えるものが明確ではなく、また、将来都市像が市民にキャッチフレーズとしては伝わりにくいのではとの意見でございますが、将来都市像「人がつながり 未来につなぐ 緑豊かな 笑顔あふれるまち やちよ」の中で、「人がつながり」は、人と人だけでなく行政、各種団体、地域との交流によって、誰もが孤立しないまちの姿を示し、「緑豊か」では、市民憲章や子ども憲章、緑の都市宣言でも掲げている本市の特徴を表現しています。また、「未来につなぐ」では、この豊かな自然と都市の調和や歴史、文化を次世代へ引継ぎ、市民憲章で掲げられている「よろこびと希望に満ちた、安心して住めるまち」を体現させる「笑顔あふれる持続可能なまち」の形成・発展をめざして設定いたしました。

なお、将来都市像の実現に向けた具体的な取組内容は、基本計画の重点施策等で示させていただきます。

続きまして、第5次は人口減少、超高齢化社会を迎えるため、大きな転換期であるとのことでしたが、その施策がどのように反映されているのかがわからないとの御意見につきまして、人口減少の緩和策として、結婚・出産は、個人の自由が最優先されるべきであることを前提とした上で、若い世代の希望を叶えるため、結婚・子育て・仕事をしやすい環境整備を図る各種施策を実施し、出生率を向上させること、また、現在の若年世代を中心とした転入超過の流れを継続させ、各世代にわたる転入超過の継続を図るべく、新しいひとの流れをつくる施策や安定した雇用の創出・時代に合った環境整備等の各施策を実施し、持続可能な魅力あるまちづくりを進め、将来予測される人口減少を最小限に抑制することを目標としています。

続きまして、「子育て期」は厳密に定義されている言葉ではないことから、人によりイメージが異なり、言葉を変える方がよいのではないかと御意見につきましては、御指摘のとおり、子育て期については明確な定義がなく、乳幼児を育児している期間のみとも捉えられるため、“子育てしている期間”となるよう記載内容の修正を検討します。

続きまして、教育体制を形成していくことが教育面では重要であること、また、別紙2で作成いただきました国立、公立、私立と対応の違い等につきましては、担当部局である教育委員会へ、情報提供させていただいております。

—伊藤委員 入室—

続きまして、市民活動団体が既に高齢化しており、担い手としては難しいのではないかと御意見につきましては、団体との意見交換会で会員の減少や高齢化が課題として挙げられてお

り、その方策を検討しているところです。

そのため、市民活動団体と限定した表現ではなく、「市民活動やボランティア活動の促進」、
「市民と行政との協働体制の確立」といった内容への修正を検討します。

続きまして、藤井委員より頂いた、子育ての充実に対しての具体的な施策メニューが見えないとの御意見につきまして、子育て施策の具体的な取り組みについては、基本計画・実施計画の策定に向けて、現在検討を進めているところでございます。

続きまして、定住に関する施策や交流人口・関係人口についての市の考え方がわからないとの御意見につきまして、観光などの推進を図ることで交流人口を促進するほか、定住に至らないものの、特定の地域に継続的に多様な形で関わる「関係人口」の創出・拡大は、新たな取組として、「構想の推進のために 第3節 多様性のあるまちづくりの推進と魅力発信」において検討してまいります。

続きまして、安心・安全の項目に上下水道を位置付けしている理由につきましては、現行の第4次基本構想では、上下水道を「快適生活都市をめざして」の柱で位置付けしていましたが、第5次基本構想の中でライフラインである上下水道を生活に密接した、「安心・安全に暮らせるまちづくり」に整理をいたしました。

続きまして、国土強靱化計画と総合計画との連携・調整がされているのか、また、強靱化というフレーズは災害に対して安心できるインフラ作りで使用すべきではないかとの御意見につきましては、現在、本市も国土強靱化地域計画の策定を進めており、この計画は、国土強靱化における市の様々な分野の計画・取組の指針としての性格を有し、分野横断的・網羅的に取組を整理するための計画として位置付けています。その為、総合計画の1つの柱に、国土強靱化に関する施策が全て入っている訳ではございませんが、国土強靱化計画策定の際には、総合計画と整合を図りながら、策定するものとしております。

また、強靱化というフレーズにつきましては、いかなる大規模自然災害が発生しても機能不全に陥らず、迅速な復旧・復興が可能な、「強さ」と「しなやかさ」を持ち、市民が安心・安全に暮らせるまちになるために推進していくことから、「第3節 安心安全に暮らせるまちづくり」の「暮らしの安全」に記載することを検討いたします。

続きまして、公共交通等の機能確保を考えるにあたり、結節点の強化が不可欠との御意見につきましては、基本構想の「総合交通・道路環境の整備」において、多様な公共交通結節点の環境整備を推進すると示していることから、具体的な内容は、基本計画において位置づけを検討してまいりたいと考えております。

続きまして、地球温暖化対策に自治体として取り組む姿勢や環境負荷要因を拡大せずに、現状を維持しながら、人口減少傾向に向かうための方策をイメージした環境理念という御意見につきましては、「快適で環境にやさしいまちづくり」の施策の大綱として、「環境との共生・

保全」の中で、地球温暖化防止に向けた取組を検討してまいります。また、現在策定中の次期環境保全計画において、環境に係る将来像や目標を示していく予定でございます。

続きまして、ゾーン別の区分について将来どのような利用を想定した地域へと発展させる、あるいは維持・継続させるというような基本的な枠組みまで含めて示すべきとの御意見でございますが、土地利用については、関係部局と調整を行う中で、令和5年度を始期とする都市マスタープランとの整合性を図りつつ、基本計画でゾーン別の位置付けを検討するため、庁内関係部署で組織する「ゾーニング計画・地域別計画ワーキンググループ」を設置しているところです。御指摘頂いた将来を想定したゾーンの位置付けは、ワーキンググループでの議論を踏まえ、決定してまいります。

また、本日参考資料として机上に配布しました、「参考資料1-5パブリックコメントの意見概要」でございますが、8月3日から約1か月間実施しましたパブリックコメントでの意見をまとめたものでございます。全部で33人、うち1つは法人から意見をお寄せいただきました。各章ごとにいくつかの意見を報告させていただきます。

第1章 将来都市像につきましては、「人がつながり」は、市内のつながりだけではなく、市と関連するより広域の地域間のつながりや、市外や県外そして海外とのつながりも含む必要があると思います。その意味では、「人々がつながり」あるいは「多様な人のつながり」などのより具体的な表現が望ましい。「未来につなぐ」は、次世代に向けて持続可能な社会を構築することを意味しており、これまでの現状を単に継承するだけでは実現できない。より積極的に未来につなぐため、「未来を創る」や「未来を創造する」というより積極的な表現が望ましい。「緑豊かな」の説明がないが、現在の自然環境を維持するだけではなく、様々な環境問題を積極的に解決して真に「緑豊かな」地域を行政や市民が主体的に構築する必要がある。

「笑顔があふれるまち」は、安心して明るく暮らせるまちの姿を表面的に表すだけではなく、喜び、希望や活気があふれるまちづくりを目指すというビジョンを示す必要がある。「幸福」という基本理念を含めると良いと考える。といった意見が寄せられました。

第2章 基本理念につきましては、「誇りと愛着」は、より個人的な意識であり、八千代市の基本理念としては、不明確である。次世代にわたり基本的な生活や環境が維持されるために主体的に取り組む必要があることとして、「持続可能なまちづくり」などを基本理念にすべきである。「共生と自立」もあいまいな基本理念である。市民やコミュニティ、行政がパートナーとして主体的に「協働」することが重要であり、地域の資源や課題を共有してその活用や解決に取り組む必要がある。「安心と安全」では、現世代や自分自身の安心と安全という狭い理念ではなく、より広く様々な主体が協調・協力することで、強靱で持続可能な地域をつくる必要がある。といった意見が寄せられました。

第3章 将来都市像の実現に向けた5つの柱につきましては、第4節「快適で環境にやさし

いまちづくり」で、「都市環境」や「都市機能」という概念があいまいで、様々なインフラを含む地域の環境を構築して維持する具体的な記述が必要である。ここでは「持続可能なまちづくり」として、長期的な気候変動問題への積極的な対応と地球温暖化への適応を含めるべきである。この気候変動問題への対応としては、長期的なビジョンとして「ゼロカーボンシティ宣言」や「気候非常事態宣言」などを含むことが望ましい。エネルギーを地域で主体的に扱うことも重要であり、単なる「環境負荷の低減」ではなく、より具体的な「脱炭素化」や自然エネルギー100%というビジョンをもち、具体的な取り組みを市民・事業者・行政が行う必要がある。循環型社会の形成においても、従来の3Rの取り組みだけではなく、エネルギーとしての利活用やゼロエミッションに向けた取り組みを含める必要がある。といった意見が寄せられました。

第4章 施策の大綱では、「第3節 安心・安全に暮らせるまちづくり 2. 暮らしの安全」で、「自助」,「共助」については書かれていますが、行政がしっかりとやらなくてはいけない「公助」の言葉がありません。「公助」と明記し、行政として何をやっていくのかを表記する必要があると考えます。3. 上下水道の項目として「3. インフラ」としてその中で上下水道、道路、橋等も記述すべきかと思います。昨年の台風の経験からすると今後は電源の確保も重要となってきます。サバイバル電源の確保をどうしていくのか、その点についても記述すべきかと思います。といった意見が寄せられました。

第5章 構想の推進のためには、人口減少・超高齢化に向き合うには、20～40代の若年世代の定住率が低く流出人口が多いという本市の特徴に着目し、市民に対してまちの魅力を高める取組みにフォーカスしていくこと、市民の流出人口を減らし定住率を上げる、仮に一時的に市外に出てもまたライフサイクルに合わせて市内に戻ってくるようなふるさとやちよを目指していくことを提案するがどうでしょうか。シビックプライドの醸成がキーワードだと考えます。市民にフォーカスすることで結果的に市外への魅力発信にもつながっていくと考えます。といった意見が寄せられました。

第6章 土地利用の基本的な方針では、人口減少・超高齢化の課題に対して、本市の市街化区域/市街化調整区域の50対50の考え方を継続・徹底しつつ、駅周辺部を中心に有効な土地利用を推進する「コンパクトシティやちよ」を基本方針、ビジョンとして提案します。といった意見が寄せられました。

本審議会では、取り急ぎ、お寄せいただいた意見の概要について一部を御報告させていただきました。今後、市の考えを整理し、パブリックコメントで寄せられた意見と市の考え方を公表していく予定です。私からの説明は以上でございます。

○伊澤会長

委員の皆さんも非常に御熱心に様々な視点からの意見をいただきまして、私も大変喜んでおります。さらに、174件のパブリックコメントでこれが十分にまとまっていないので、行政、事務局の方としては、このパブリックコメントをどのように活用するかということについての作業を少し時間かけてやりたいというお話でございました。それでは、委員の皆様の御意見を求めたいと思います。

ただいまの御説明にありました皆様から頂いた意見及び質問、またはそれ以外の意見、質問がございましたら、御自由にお話いただければと思います。いかがでしょうか。

特に、今日初めて来ていただいた委員の出雲先生や山口先生や中嶋委員から、もし、今日の説明で感想があれば、そこを切り口としてお話出来ればと思いますが、いかがでございましょうか。

○山口委員

今回初めてで、お送りいただいた資料を読んで色々感じたんですけども、確かにこの計画の目的がはっきりしないみたいな話も色々あったんですけども、やはり一番感じたのは、人口をどうするかなというのが大きいのかなというふうに感じました。

確かに18歳人口の減少で日本全国では、人口が減っていくのですけれども、八千代市はまだまだこれから増えていく可能性があるんじゃないかなということを感じました。

市の南の方は、昭和40年代頃にローン組んで家を作った方々、第1世代がいらっしゃるわけですけども、第1世代が高齢化して、その方々のお子さんたち第2世代が来るかなどうかなというのが1つのポイントかなと思います。

今どき同居ってということはないと思うのですけれども、どうせならスープの冷めない距離、同じ市内に住みたいというような、そういった動きを取り込めるといいんじゃないかなという意味では、例えば、親が八千代市内で、子どもが八千代市内に引っ越すときには引っ越し費用は少しサポートしますよとか、大した金額でなくても、例え1万2万円でもサポートがあると、ついフラッとそっちに行っちゃうのかなというのもあるかなという気がいたしました。

また、第1世代に対して第2世代を持ってくるだけではなくて、やはり北のほうは東葉高速線が開通してから、今、非常にこの新しい住宅が建てるように見受けております。

東葉高速線の周辺というのは、これから住宅が建ちそうな気配で、今建てているところも随分ありますので、そこら辺に新しい世代を呼び込むときも、さっきの第2世代と同じように、引っ越し費用は多少という形で、何かそういった呼び水の的なものも考えられるかなと思います。

ただ、これ予算のこともありますし財政もあるので、ちょっと思い付きで申し訳ありません。そういったふうに呼び込むのはいいんですけども、八千代市の交通網ってというのは、東西と

いいですか横ですね。要するに都心に向かっては非常に色々な路線が入ってるんですけども、南北が非常に悪いというか、バスを使うしかない、あるいは自家用車ということになるんですけども、先ほどのような同じ市内で、お祖父さんお祖母さんと孫が交流するといったときには、やはり南北の交通網が重要なと思います。

道路も、色々大変だと思うんですけども、それ以前に、自家用車ではなくコミュニティバスのようなものがあれば、小学生中学生ぐらいのお子さんが親に頼らず、お祖父さんお祖母さんのところに遊びに行けるような南北の交通網、それから、高齢者の方は交通事故も色々ありますので、やはり高齢者の方が自家用車に頼らずに市内で動けるような仕組みがあるといいんじゃないかなと感じました。

そういったような、南北の交通っていうのは今すごく重要じゃないかなと考えております。新しい世代を呼び込むためにはやはり子育てに対する対応が必要で、保育所がたっぷりありますよとか、あるいは子どもの医療費は、都内ですと小学生無料であるとか中学3年まで無料の区もあつたりと、23区内でも子育て世代に人気のある区とそうでない区ってかなり差が出ているような感じですので、子育て世代が、経済的な面でも動きたくなるというのがあると思います。

それこそ今の新政権になって、不妊治療を保険対応にするとか、そういった出産子育てに対して、やはり経済的に気持ちでいいのでちょっと何かプッシュしてるというようなことが、見えてくると、子育て世代の方は来やすいのかなという気がします。

あとは、道路なんですけれども、すごく細くてT字路があつて、子どもに限らずですけども、歩こうと思うと非常に歩きにくいところが多いんですね。大学がありますのは、16号線の北なんですけれども、大学の前に住宅地があつて、小学生たちが通うときには、結構危ない道路をトラックが走つて、歩道が整備されてないところを行かなきゃいけないということで、かなり地元のお母様方が心配してるということがありました。

今は、地域から小学校までの直通バスが走るようにしたり、色々工夫はしてらっしゃるんですけども、やはり歩ける、あるいは自転車の子どもたちもよく見かけるんですけども、見ているものすごくハラハラしますので、子どもたちが自転車で移動する時の安全も、すぐには無理だと思うんですけども、将来的に考えなきゃいけないことじゃないかなと考えております。

こちら辺は気になっている、ちょっと改正した方がいいというのがあるんですけども、惹きつけるためには、例えばリモートワークがこれからの世界出てくると思います。

ただ、リモートワークといっても自宅でやるのはなかなか大変で、子どもに邪魔されたりとか、部屋がなかったりとありますので、拠点的なもの、一人一人のブースは小さくてもいいので、自宅からの近いところでリモートワークするんだつたら、例えば図書館の中にリモートワーク専用の一角があつて、1人が畳1畳、畳半畳でも、それぐらいのブースがあつて、市内で

リモートワークする時には自宅ではなく、図書館の横であるとか、市民会館の横にちょっとそういったような施設があると、八千代市ってリモートワークに優しいなというのがあるんじゃないかなという気がいたしました。

あと、それから先ほどお米を市内の学校でというのがあったんですけども、今やはり食料自給率のことが散々言われていますし、あるいは安全な食品ということもあるので、八千代市ってというのは、南の方は住宅地なんですけれども、バスに乗って移動していくと、田んぼもあるし畑もあるし、地元で非常に食料もありますので、地産地消ということで、地元の八千代市の野菜、八千代市のお米を八千代市で食べましょうと。今、無農薬までいくと大変かもしれませんが、できるだけ安全を考えた農業をやってる八千代市の安全な食料を八千代市で食べましょうと推進し、それが可能になるためには、流通網が必要になっていきますので、確か道の駅でそういったようなことが出来るんですけども、割と簡単に市内で生産された農産物が市民の手に、せっかく食べるんだったら八千代市の野菜食べたいわという時にパッと手に入るような、そういう流通の仕組みがあってもいいのかなという気もしました。ちょっと思い付きが多いんですけども、そういったようなことを考えております。以上です。

○伊澤会長

大変幅広く、おまとめ頂きまして大変ありがとうございました。

私も感じるところが2点、1つは八千代市の南北問題ということを非常に明確にお話いただきまして、ぜひ、この審議会の答申にもそういうものが含まれるといいなというふうに思いました。

それから、皆様の意見の中で、定住だとかあるいは移住というような形ではありますが、まさに今回のコロナで都市の集中、それから、地方への分散あるいは郊外の分散という非常に大きなベクトルが動き始めております。

ポストコロナについては、今回の計画の中ではあまり触れないということになっておりますが、早く八千代市が、今のテレワークステーションみたいなものがサテライトで出来るようなことを含めて、ちょうど20万人になった八千代、これから人口減少が心配だという中で、ポストコロナが神風になるかもしれない。そういうような視点として見ると、大変夢のある話であるというふうに大変面白く、お話を聞かせていただきまして、ありがとうございました。

出雲先生、一言ございますでしょうか。

○出雲委員

以前、国連からミレニアム開発目標が出されてきて、その時にいくつか目標があったのですが、私の立場、分野からそれぞれの目標がスポーツを通じて、目標達成を目論むということが

読み取れるものでした。それは多くの国で開発可能のためのスポーツということで、スポーツを通じて開発をしていくということが国際的な流れでもあって、国連の1つのツールとして、スポーツを通じてSDGsの目標を達成していこうという動きもありますので、独自性を出すという意味でも、八千代市は土地がありますので、SDGsの目標を総合計画の中に盛り込んで、スポーツを通じて達成するという何か記述があると他市に先がけた独自性のある総合計画になっていくかなと感じています。

○伊澤会長

先ほど、山口先生の方から八千代の農業の将来についてみんなで八千代のお米を食べようという視点で、中嶋委員、何かありましたら足し加えていただけるとありがたいです。

○中嶋委員

先ほど山口さんから、お話のありました通り、地産地消しようということで当農協も、なるべくそれに、皆さんの期待に応えるように直売所を今、作ってございます。

ちょっと狭いんですけども、来年度は当農協本店の敷地内に今の約3倍の直売所を建設する予定であります。そうすれば大勢の方がお見えになることが出来ます。また、農家の方も売り場面積が多くなれば、その分色々な野菜、またお米、果樹を出荷できますので、地産地消をなるべく皆様に食べて頂きたいと計画しております。

それと、話は変わりますが、今この「参考資料1-5 意見の概要」をざっと目を通したんですけども、道路のことに関しての御意見がかなりございます。

八千代市は、大澤市長以前から、都市計画道路を作っていますが、それは一向に整備されていません。ですから寸止めの道路がかなりございます。道路整備することによって、流通、また人の流れが良くなると思いますので、なるべく早く、この道路の整備をよろしく願います。以上です。

○伊澤会長

はい、ありがとうございました。今、直売所を作るというお話がありましたけども、新川のところにある道の駅とは違いますか。

○中嶋委員

農協本店の敷地内です。以前、市の建物で研修センターがございました。市が取り壊して、うちが土地を購入しまして、その跡地に新しく直売所を建設する予定であります。

今、市の関係と色々開発行為とか、手続きがございまして、市の手続きが終わりますと今度

は県の方に申請しなければなりません。それで色々と時間がかかっております。予定では来年の11月ごろです。

○伊澤会長

ぜひ、試食させていただきたいと思います。ありがとうございました。

それでは、今日初めて参加した委員の先生方からお話いただきましたけれども、これからは今日のすべての御報告、御意見に対しての意見がございましたら、自由をお願いいたします。

○藤井委員

前回、第1回目の会議の時の策定スケジュールを見させていただくと、今日は基本構想案の答申を検討するという形になってるので、ある意味その部分に関してという形で少しコメントさせていただきたいなと思っています。と言いますのも私自身も今回質問させていただいた中には、基本構想のその下の基本計画に関わるこの案件をだいたい質問しました。

そうすることで、今回、御議論いただいた中でも、八千代で生活をする上で身近な問題に対して、こう改善したいという、より直近的な課題に対する意見、こういったものが相当盛り込まれています。

そういった中では、構想としてどういう方針を設定していくのかといったことの是非の部分のところについて少しコメントということです。

その観点は、パブリックコメントの中に結構あったんですが、総合計画自体が8年間で短いといったキーワードが1つありました。それに対して都市マスが20年という長い期間のため、本当に市の最上位計画という位置付けがあるの？と言ったようなところ。

それから、事務局として、4次の時には基本計画の部門が、構想の中に盛り込まれていたもので、差別化ができなかったのが今回削除したと、そういったところでは、私はこの整備してきたことに対してはいいことだなというふうに思っています。それともう1つは、8年だから短いかというと、今の私が関わっている八千代市以外のところの総合計画は今4つ動いてるんですけども、そこでは最長で20年、12年、そして10年といったところが2か所です。ですので、8年というのは非常に短いなという感覚があります。

ただ、その8年が駄目かというところではなくて、基本構想というのは、市の求めている目標あるいは指針、そういった全体像の枠組みを示すところなので、8年であったとしても、全体の長期の視点を置いた方向性が組み込まれているかどうかの判断になると、そういった中では、今回示していただいた枠組みといったところは、方向性を少しずつ示しているのでもいいなど。ただし、一部、具体的な事案がかなり細かく出すぎているところがあるので、そこは、全体像を事務局の方で揃えて頂きたいと。

それに対しては、今回、意見・質問票に対する回答として、事務局が改善の意図を示してきていただいたところで、私はよろしいかなというふうに思っているんですが、一つ、今回回答申にあたってということで、具体的な書き込みがなくても構わないんですが、都市計画マスタープランが今後策定される予定だということなので、その上位計画である総合計画の基本的な理念がきちんと都市計画マスタープランに表れているかどうか、こういったようなことをきちんと連携して取り組まれるようにといったようなことは、付帯意見としてつけていただくのがいいのかなと思っています。

基本計画自体、4年という短い形の中で具体的にこうローリングさせながら検討していくようなプログラム、これは社会変化が非常に激しい中で、八千代市がこれを目指していこうという基本計画を基軸として動かすという、これは決して悪いことではなく、良いことだと思えます。

ただ、そうした場合に都市計画マスタープランで相当する都市の計画作りである長い計画作りと齟齬が出てきてしまう。

こういったようなことを防ぐためにも、上位である総合計画の基本構想といった枠組みの中で、その狙いといったものがきちんと合っているかどうか、これをきちんと精査する、こういった方向性を意見として付帯意見として組み込んでいただく形であれば、構想自体、スムーズにいくのではないかなとそういうふうに思っています。

あと、個別の基本計画に関する細かい事案については、まだ色々ありますので、それは、具体的に、私も基本計画の諮問を受けた形で意見交換する場があると思いますので、今日は意見としては述べない形をとらせていただきます。以上です。

○伊澤会長

短い時間で、まとめていただきまして、ありがとうございます。

先生の今の視点は非常に大局的な視点で、大変重要な視点だと思います。事務局の方にちょっと聞きたいんですが、今藤井先生の言った都市計画審議会とのアクティビティといいますか、まとめる期限だとか、あるいはこの総合計画審議会との交流、そういうような作業や流れみたいなものをどのように捉えているか、少し御説明いただくとありがたいんですが。

○事務局（原田主幹）

都市マスタープランの担当部署が都市計画課になりますが、基本計画、基本構想を策定するところの土地利用についての基本的な方針といったところを策定していく中で、この表現方法について、こういった形で書き込んでいけばいいかについては、調整を取らせていただきながら、策定したところでございます。今後も、具体的にこの構想、さらに基本計画を策定してい

く中で、ゾーニングも考えていくところで、都市マスタープランが令和4年度中に策定して令和5年度から実際に計画として動いていくというところの策定作業をする中で、きちっとそちらの内容と整合性等を図りながら、その進捗状況についても、適宜、報告をさせていただき、調整を図っていこうという話をさせていただいています。

○伊澤会長

はい。ありがとうございます。

ぜひ、全体像構築にあたっての作業も、よろしくお願ひしたいと思います。

ほかに御意見ございませんでしょうか。どのようなことでも結構です。それから、何かよくわからないねというような御質問でも、詳しくお話できると思いますのでよろしくお願ひいたします。

○伊藤委員

今、八千代っていうのは、八千代台を食いつぶして古いまちにして、勝田台もいつの間にか駅が重なってるにもかかわらず廃れてしまった。

だからこういうものをもとに考えないと、新しいものばかりに食いついても、いずれまた同じことを繰り返すのかなと。緑が丘、八千代中央も今までのことから言うと、いつの間にか衰退して人が居なくなってしまう。

まちづくりからすると、じゃあ今もう八千代台手放しちゃっていいんですか。勝田台もいいんですか。今、新しい緑が丘、中央も何とかマンションがたくさん建って、八千代台も最初、公団が最初に出来ましたと頑張っていたのだけれども、いつの間にか衰退してしまった。この繰り返しをまたやらないように、ぜひ考えて欲しい。

総合計画も、新しいものに食いつくんじゃなくて、なぜそういうふうになっちゃったんだろうっていうもとに考えないと、確かに新しいのにくっついていくのはいいんだけど、やっぱりそういったものを基に考えてなぜこうなっちゃったんだろうっていうものがないと、また同じことの繰り返しになってしまうんじゃないのかと思うんですよ。

○伊澤会長

大変、貴重な御意見だと思います。

都市というのは生成発展しますけれども、今滅びかけているまちをどう蘇らせるかという作業も都市計画の中には当然なくちゃいけないんです。どうして衰退しているんだろうという検討の中で、それぞれが元気なエリアと、少し衰退し始めてるエリアを総合的に関わり合いの中で広く考えていくっていうことは、常に自治体に求められてることでありまして、大変貴重な

意見でありますので、ぜひ事務局に今のような視点についても、足し加えてもらいたいというふうにしたいと思います。事務局の方、よろしく願いいたします。そのほか、ございますでしょうか。

○渡部委員

私は八千代市の長寿会連合会の副会長している渡部でございますが、話を聞いていて、今、高齢者が安心して住めるまち、長寿会連合会のミッションだろうと思って、色々なことを今、考えさせていただいてるんですね。

実は先日も、65歳以上を高齢者といいますけども、八千代市には5万人いるんですけども、その中で私の住んでいる地域の女性の方がこの暑さの中、一人暮らしで、20日間過ぎてから亡くなったのを周りの人が気付かれたと。異臭でわかった訳ですけども、「一人暮らしの人に連絡できるシステムはないんでしょうかね？」そういう相談があって、綱島会長も居られますけども、福祉センターにお邪魔して、それから長寿支援課にも行きました。結論は、ALLSOKの緊急通報システムがあるということだったんですが、これが今八千代市内で800件入っているということなんですけども、高齢者5万人の中の単純計算でわずか1.6%ですよ。今私の方では、長寿会連合会の方でチラシを作って、地域包括支援センターさんと一緒になって、ミッション的には地域包括支援センターさんの役割になりますから、それと行政、民生委員が絡んできますから、各自治会、マンションの中の管理組合などなどにポスティングして、こういうことを必要ですよ。お祖父さん、お祖母さんが一人暮らしだったら何かあったら大変でしょうというふうな漫画的なチラシを作って、今月末から地域包括支援センターさんの方で配らせてもらう段取りを今とっているところです。

今、八千代市長寿会連合会の事務所に派遣で来ている女の子にその話をしたら、それいいですね、私の友達でお父さんが1人で住んでるので、これを友達に早速勧めますということです。

総合計画ですから色々あると思うんですけども、やっぱりお年寄りが安心して暮らせる、そういう八千代市に、もちろん我々、私の長寿会連合会も頑張りますけれども、そういうまちにしていくことが大事じゃないかなというふうに、特に最近感じておりまして、もちろんコミュニティバスの問題もそうですよ、色々な事情があると思いますけども。そんなことを感じましたので、今お話しさせていただきました。

○伊澤会長

ありがとうございます。私も70歳を過ぎました。まさに、切実な問題としてよくわかります。確かに人口減少がこれから進む中で、重要なのはやはり、少子化・高齢化、これがペアで色々な問題を考えていかなくちゃいけないということで、ぜひ重要な視点だと思いますので、

今後事務局の方で生かしていただきたいと思います。

○山口委員

一人暮らしの高齢者についてなんですけれども、私の知ってる範囲では、象印の見守りポットっていうのがありまして、ポットを押すと関係者のところに今日6時半にポットを使用した、今日夕方スイッチ押したと来るので、それで大丈夫だと見られるのと、あとそれからNTTドコモの子ども用のキッズ携帯というのがあるんですけども、紐を引っ張ると3か所ぐらい電話が回るんですね。

例えば、お腹が痛い、胸が痛いと言って倒れた瞬間、電話かけることも出来ない時にその紐を引っ張りさえすれば、関係者に行くとかというのがありますので、そういったものを周知すると同時に何かその仕組みを市で出来たら素晴らしいなと思いました。以上です。

○伊澤会長

貴重な情報ありがとうございます。

○渡部委員

おっしゃる通りで、その仕組みをきちっと作るということが大事だと思います。

○伊澤会長

ほかに御意見ございませんでしょうか。

○荒川委員

一つ要望というか、今回、会議の前にこのパブリックコメントの未定稿を頂いたんですけども、15ページあるこれだけの字の量のものを、会議前に読みきるっていうのはちょっと無理だと思うので、出来ればほかの資料を送っていただいた時にでも、一緒に送っていただければ目が通せたのかなと思いましたので、出来ればそうして頂きたいなと思いました。

あと、この間の私の質疑に対して、いただいた資料の1-3なんですけど、多分、ページをめくった時に前回、最初にもらったこの審議会についているデータの抜粋ではないかと私は思ったんですけど、それが何かというのがよくわからない。母数とかも、何に基づいて出した数値なのかもってというのがよくわからなかったの、そのぐらいいは書いて欲しかったかなっていうのと、あと、内容を調べてみたんですけど、何より、ただパーセンテージだけしか書いていないんですけど、この資料見せていただいてこれが元になっているものだとするならば、申し訳ないんですけど、企画経営課の内容が非常に達成率が悪いということを見て思いました。なおかつ、

その達成率が低い理由が、わからないの回答を選択している人がものすごく多いなっていうところがあったので、わからない人が半分いる中で評価を得るっていうこと自体が、まず無理なんじゃないかと私は思いました。

また、特にこのパブコメの中にもあったんですが情報の内容を市民が共有できる形にしなければならぬんじゃないかという意見に対して、そこが一番弱いところなんじゃないかなってというのはこのデータを見たときに私は思いました。以上です。

○山口委員

今の意見に加えて、今回ここに来るにあたって、前回のことに関して皆さんが、ペーパーで質問出してそれに対する回答をこの大判のもので今日最初に読んでいただいたんですけども、まとめ方として、委員ごとになってるんですけども、同じ項目について、2人3人の委員の方が言ってらっしゃると。回答ダブってるところもいくつかあったと思いますので、まとめるときには、こちらの案の方の1章についてこの人から意見があった、2章にはこの2人から意見があったという形で、ちょっとその順番を並べ替えるだけでも随分効率違うと思いますので、お願いします。以上です。

○伊澤会長

時間のある限り、そういう対応でまとめていただけるということで。ほかにございませんでしょうか。それでは皆様から大変貴重な御意見を多く賜りました。

事務局から、本日参考資料として提示のありました、パブリックコメントに対する市の考え方等を次回会議で示したいと思います。今日、諮問案を作るというこれまで藤井先生からも意見が出ておりましたけれども、パブリックコメントに対する市の考え方をまとめた上でその結果を参考にしつつ、八千代市第5次基本構想に対する審議会全体の意見を整理して、答申の案を作成していきたいと思いますが、いかがでございましょうか。

○委員一同

異議なし

○伊澤会長

そういうことで事務局の方でまとめさせていただきます。

続きまして「議題2 その他」でございしますが、事務局より連絡事項がありますから、お願いいたします。

○事務局（原田主幹）

次回の会議につきましては、基本構想素案の答申の内容について御協議をいただきたいと考えております。

先ほど、荒川委員の方からも御指摘いただきました、当日の資料としてパブリックコメントの意見のみということで御提示させていただいておりますけれども、そちらの内容に対しての市の考え方を整理したものを、また見ていただいて、御協議等いただければと思っております。

開催通知等につきましては、また、日程の調整をさせていただいた上で改めて御連絡をさせていただきたいと思っております。御案内させていただきました際には、御出席の調整等、御配慮のほどよろしく願いいたします。こちらからは以上です。

○伊澤会長

それでは、本日予定された議事は終了いたしました。以上をもちまして総合計画審議会を閉会といたします。長時間にわたり御協力いただきましてありがとうございました。